東久留米市
Higashikurume City

一般社団法人
サステナブル市民会議

くるめゼロカーボンチャレンジらぼ

第2回資料（2026年10月24日〔土〕）

- ✓第1回グループワークの主な意見
- ✓第1回グループワークの主な質問と回答
- ✓第1回アンケートの主な質問と回答
- ✓第1回アンケートの主な意見と対応

第1回グループワークの主な意見

【水とみどりについて】

✓東久留米は今のままでいてほしい。

✓川の水が綺麗。蛍が増えるとうれしい。

✓環境に配慮した洗剤を使う。

✓東久留米の生物多様性について学びたい。

【農地について】

✓東久留米の畑が減っていくのが悲しい。

✓学校給食の食材をオーガニック化する。

第1回グループワークの主な意見

【豪雨について】

✓雨がたくさん降ると道路に水が溢れる。雨水浸透マスが溢れる。

✓今後、排水管等を改善する予定があるか心配。

✓ウッドチップの道路に変えると雨水が染み込みやすくなる。

第1回グループワークの主な意見

【気候変動について】

✓世界中で山火事が起き、CO_2の増加が心配。温暖化が原因ともいわれている。

✓石垣島の海水温上昇。サンゴの白化。

✓石垣よりも東京の方が暑い。インドより東京の方が夏がしんどい。

✓暑さのせいで自宅に引きこもりがちになってしまう。

✓気温がどんどん上昇し、子や孫の時代にどうなるのか心配。

✓高齢者でもできる脱炭素の取り組みが必要。

第1回グループワークの主な意見

【省エネ・再エネについて】

✓省エネや再エネをもっと身近に取り入れる必要がある。

✓学校を断熱改修する（体育館）。

✓エアコンの温度を1～2度上げる。

✓エアコンをつけっぱなしにする（オンオフの繰り返しがダメと聞いた）。

✓商業施設の明るさを落とす。

✓プラグインソーラーを使える環境を整備してほしい。

✓空き地の活用。ソーラーパネルを設置する。

第1回グループワークの主な意見

【交通について】

✓公共交通を増やしたい。

✓電動バスを増やす。運航路線を拡大する。

✓自転車は地球を救う（移動手段の選択）。

第1回グループワークの主な意見

【省資源・資源循環について】

- ✓生ごみ対策でコンポストを広めたい。住んでいる地域でやってみる。
- ✓コンポストを始めたいが、動機付けがなくスタートできない。
- ✓団地（集合住宅）で分別されていないごみ袋が放置される。
- ✓外国人でもゴミ分別しやすい工夫が必要。
- ✓プラスチック製品（ペットボトルなど）を買いすぎない（マイボトルや浄水器を活用）。
- ✓はかり売りの店が増えてほしい。

第1回グループワークの主な意見

【学び・活動について】

✓子供たちがどのように環境問題について学んでいるか知ってもらう。

✓中学生から環境問題へ（学校ではなく）。

✓大人が学んだほうが良い。学校教育に依存しない。

✓市民がもう少し市政に興味を持ってほしい。

✓若者中間層にもっと参加してほしい。

第1回グループワークの主な意見

【その他】

✓物価高騰による経済困窮でゆとりがないと環境に気が向かない。

✓市で行っている対策を知りたい。

第1回グループワークの主な質問と回答

【水とみどりについて】

回答：東久留米市

◇東久留米のみどりは減っている？増えてる？
◇森など緑地を増やすことはできる？
◇緑被率の減少対策は？

➡　樹林地や農地などの緑は、雨水の地下浸透や地下水のかん養に重要な役割を担っています。市では、緑地保全計画に基づいて、保全優先度の高い緑地について、公有地化を含めた様々な手法による保全を進めています。

令和７年度には、前沢森の広場の北側農地約0.37haを取得。都市計画事業の認可を取得し、一体的に保全・整備していきます。

第1回グループワークの主な質問と回答

（回答の続き）

➡ 緑被率（航空写真判読）

H5（1993）の39.2％から、R3（2021）の29.2％へ減少

➡ 農地面積（農業振興計画より）

R7（2025）で132.0ha。H27（2015）年から10年間で32ha減少（減少率19.7%）

➡ 緑地率（第三次緑の基本計画）

H10（1998）の23.5％から、R7（2025）の１８．３％へ減少

公園緑地等の割合は上昇（2.3⇒3.3％）、保全地域等の樹林地は維持。

第1回グループワークの主な質問と回答

【農地について】

回答：東久留米市

◇東久留米の農作物はどのくらい市内で消費されている？

➡　残念ながら、具体的な消費量は把握できていません。ちなみに、市内には直売所が67カ所あり、市内で収穫された野菜や果樹など多くの農作物が身近に販売されています。

◇柳窪小麦はどれくらいとれる？

➡　令和８年度は約１．６トンほど。栽培に手間がかかることや、出荷先の確保などの課題により、近年は生産量が減少傾向にあります。

◇市内農家で、ソーラーシェアリングしている人はいる？

➡　いません。都市部の農地は、住宅地と近接しているため、反射光や景観への影響などの立地上の制約や、制度上の課題などもあり、導入が難しい現状があります。

第1回グループワークの主な質問と回答

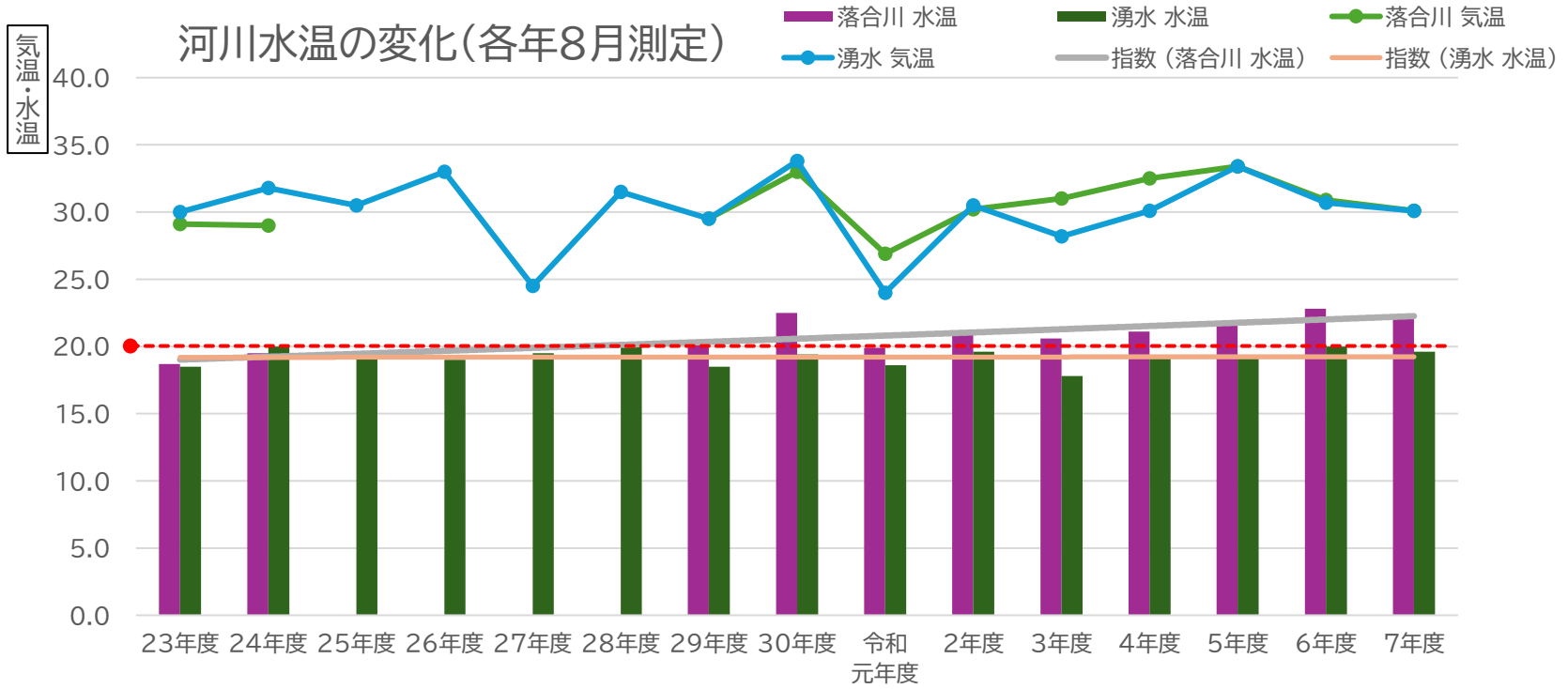
【気候変動について】

回答：東久留米市

◇温暖化で川の水温は上がってる？川の生きものへの影響は？

➡

- 豊かな湧水が水源
- 水温は比較的安定
- 夏冷たくて、
  冬は比較的暖かい
- キレイで冷たい
  水を好むホトケドジョウも生息
- ナガエミクリ、ミズニラなども生育



※気温は測定日のもの

【測定地点】
①落合川：宮下橋下流（湧水合流前）ただし、H●●までは神明橋
②湧水：宮前橋上流～南沢氷川神社付近

第1回グループワークの主な質問と回答

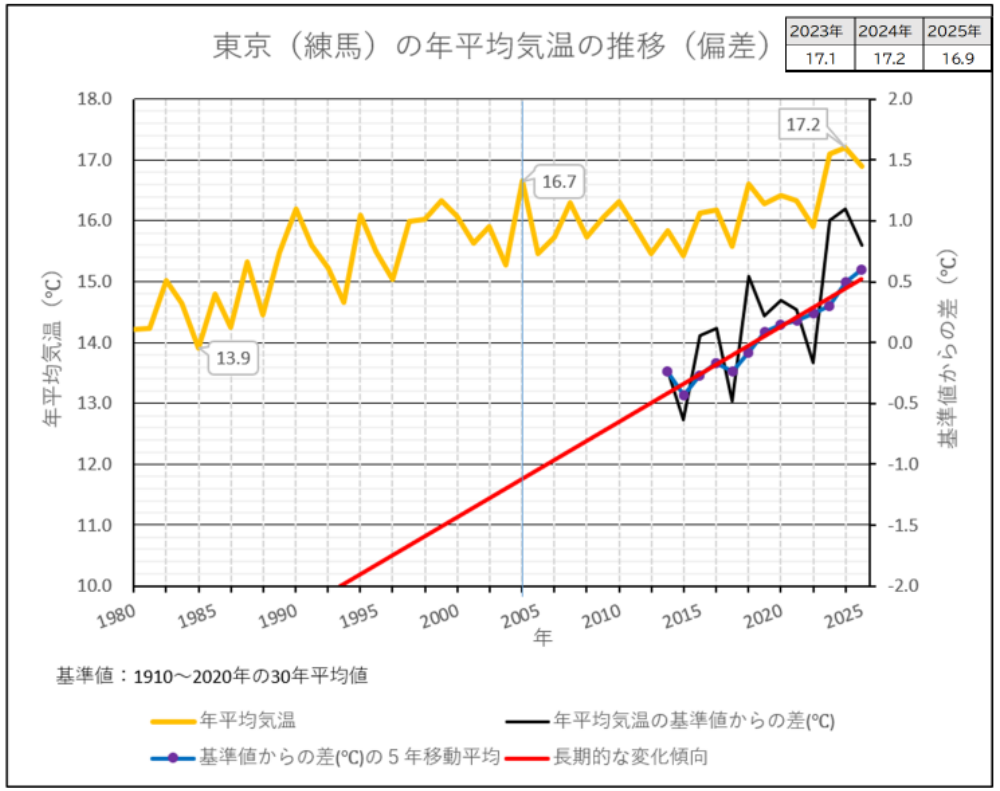
【気候変動について】

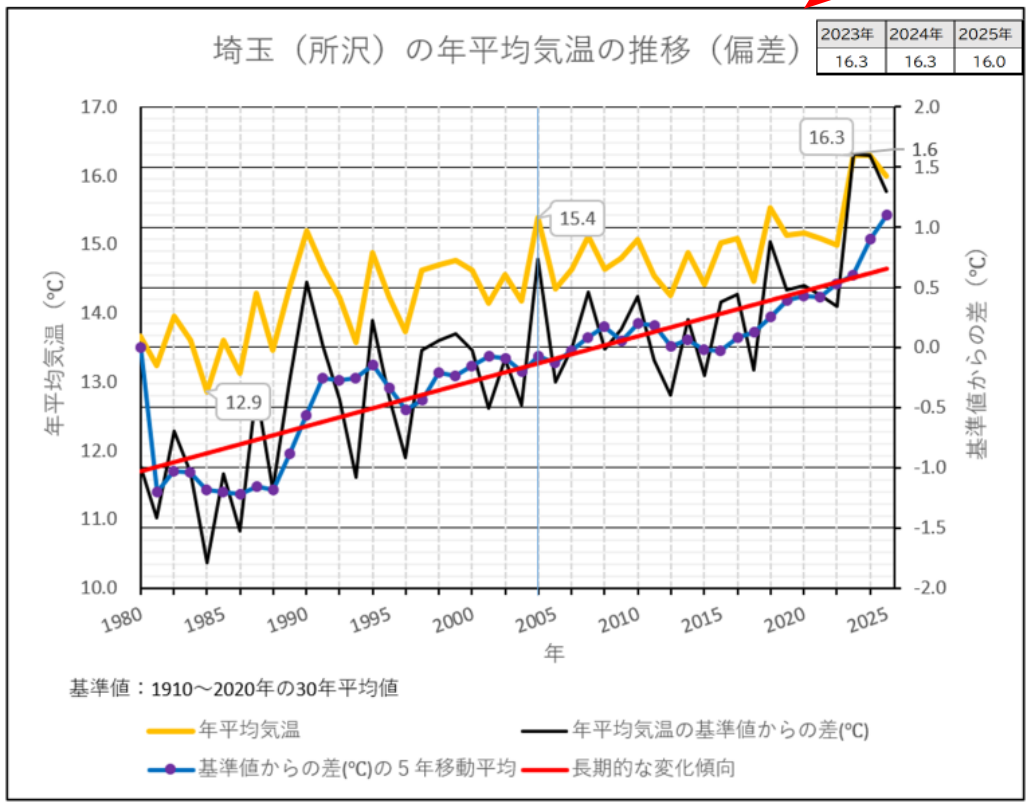
回答：東久留米市

◇毎年、最高気温が前年を上回っていない？

年平均気温は
上昇している！

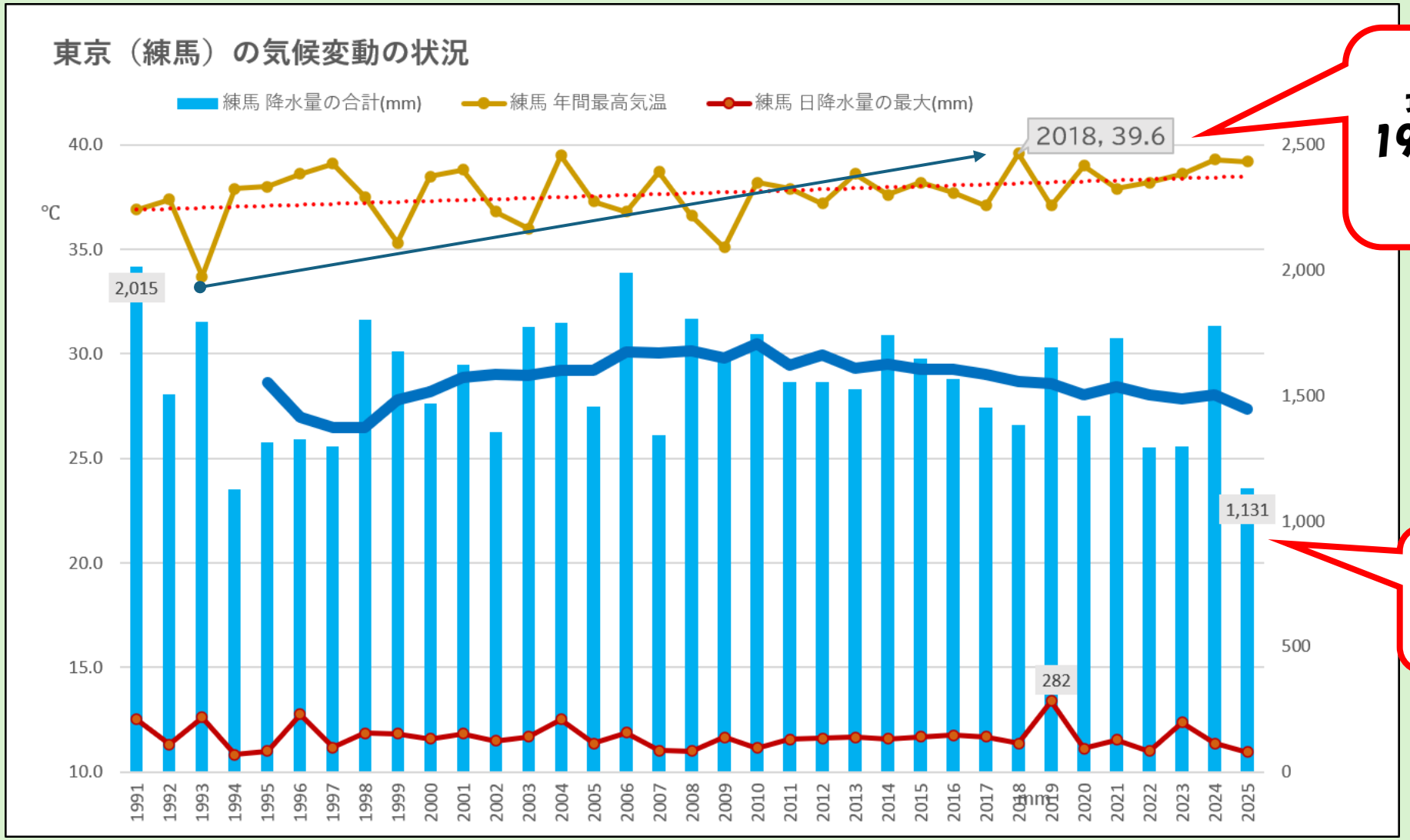
➡





第1回グループワークの主な質問と回答

（回答の続き）



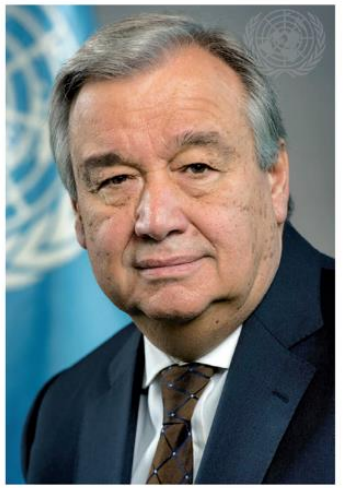
最高気温は上昇！
1993年の33.7℃から
2018年の39.6℃へ

年間降水量の合計
は減ってきている

第1回グループワークの主な質問と回答

（回答の続き）

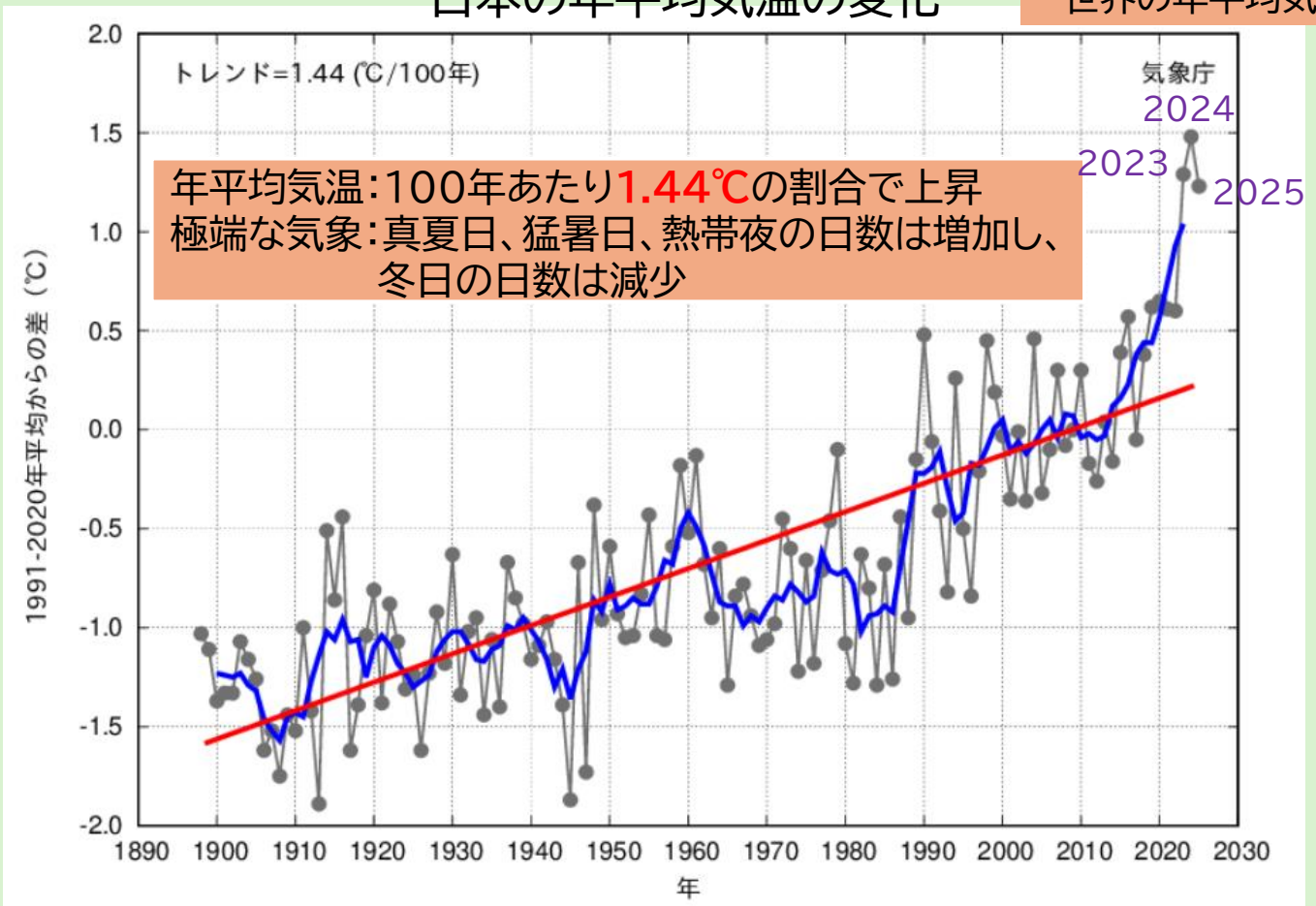
➡ 2023年7月、国際連合のグテーレス事務総長は、「**地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した**」と表明。気候変動による最悪の事態の回避を訴えました。



アントニオ・グテーレス氏
©UN Photo/Mark Garten

日本の年平均気温の変化

世界の年平均気温：100年あたり**0.79℃**



観測史上　最も暑い年
2023年　第2位
2024年　第1位
2025年　第3位

灰色は各年の偏差
青色は5年移動平均値
赤色は長期的変化傾向

（出展）気象庁HP

第1回グループワークの主な質問と回答

【省エネ・再エネについて】

回答：東久留米市

◇市内に太陽光パネルをつけられる土地はどれぐらいある？

➡　「東京ソーラー屋根台帳」（ポテンシャルマップ）を使うと、都内にあるそれぞれの建物がどのくらい太陽光発電システムや太陽熱利用システムに適しているのか一目で分かります。

検索　東京ソーラー屋根台帳　https://tokyosolar.netmap.jp/map/information01.html

◇マンションにつけるソーラーパネルの助成金はある？

➡ 家庭における太陽光発電導入促進事業や東京ゼロエミ住宅普及促進事業、集合住宅における再エネ電気導入促進事業など多数あります。

検索　クールネット東京　https://www.tokyo - co2down.jp/subsidy/

第1回グループワークの主な質問と回答

【省資源・資源循環について】

回答：東久留米市

〈ごみの分別について〉
◇住む場所によってごみの分別方法が違うのはどうして？
◇ごみ分別をしないことのメリット、デメリットは？

➡ 分別ルールが地域で違う理由：

処理施設や収集方法、リサイクル先が地域によって違うため、地域に合ったルールになっています。

➡ 分別しない場合：

出す人は楽ですが、資源にできるものまでごみになり、処理費用や環境への負担が増えます。

家庭で分別 ➡ 収 集 ➡ 選別・圧縮 ➡ リサイクル

正しく分けることが、「ごみ」をもう一度「資源」に戻す第一歩です。

第1回グループワークの主な質問と回答

【省資源・資源循環について】

回答：東久留米市

〈リサイクルについて〉
◇東久留米では、プラごみはきちんと再生されている？
◇リサイクルはどうなっている？

➡　プラスチックのリサイクル：

　東久留米市の容器包装プラスチックは、選別して汚れたもの等を取り除き、リサイクル事業者へ引き渡しています。

➡　その他の資源：

　ペットボトル・びん・缶・紙類なども、種類ごとに集めて、資源として活用しています。

第1回グループワークの主な質問と回答

【その他】

回答：東久留米市

◇市公式LINEの登録者数は？

➡　友達登録は18,362人（8/27時点）
「ごみ・環境」をチェックしている人は、4,400人

◇東久留米でPFASの水質検査は行っている？

➡　市独自の検査は行っていません。東京都水道局で定期的な水道水の検査を行っています。

第1回グループワークの主な質問と回答

【その他】

回答：東久留米市

◇非常時の生活水の対策は？

➡　滝山及び南沢給水所を給水拠点とし、水槽内の水道水を飲み水として確保し、市民の皆さんにお配りすると共に、市内の指定避難所にて応急給水栓から水道水をお配りする予定です。また、生活用水を確保するために、市内に45か所の震災対策指定井戸を指定しています。

◇井戸水の使用可否の整理は？

➡　発災後に各震災対策指定井戸の状態や目視による水質確認を行い、市民に開放する予定です。ただし、ほとんどの井戸が個人所有のため個人の敷地に入ることについて所有者の承諾が必要になることと、井戸周辺の安全が確認できることが開放を行う条件となります。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇太陽光発電はいつから始めた？
◇太陽光発電はスタートしてすぐ効果があらわれるものではないの？
◇東京都2/３の補助で蓄電池を入れて７年で回収されたということだが、その後は何年位、年いくら位の電気代でやっていけると想定している？

➡　太陽光発電は2024年8月末に設置し、9月から発電を始めました。太陽光発電は設置後すぐに発電を開始しますが、売電については手続きの関係で実際に始まるまで数カ月かかりました。

「7年で回収できる計算」というのは、東京都の補助制度を活用して太陽光発電と蓄電池を導入した際の自己負担額を、毎年削減できる電気代で割ると、おおよそ7年で元が取れるという意味です。

→　（太陽光発電＋蓄電池の自己負担額）÷（年間の電気代削減額）≒7年

第1回アンケートの主な質問と回答

（回答の続き）

➡　太陽光発電の耐用年数は一般的に30年程度といわれています。経年によって発電量は多少低下する可能性がありますが、我が家では導入後、電気代は導入前と比べて約6割削減できています。

今後の電気料金の動向にもよりますが、我が家は再生可能エネルギー比率の高いパルシステム電気と契約しているため、化石燃料価格の高騰による電気代上昇の影響は比較的受けにくいのではないかと考えています。

私自身、環境のために我慢しているという感覚は全くなく、むしろ夏なども、電気代の節約を気にせずエアコンを利用できるようになりました。家族にとっても、災害時など、いざというときの安心につながっていると感じています。

〈参考1〉東京都太陽光ポータル
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/climate/solar_portal

〈参考2〉クールネット東京 太陽光発電システムについて、よくある相談・質問
https://www.tokyo-co2down.jp/action/individual/solar/faq/

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇東久留米のような小さな自治体、そしてその市民は何をすべきなのか？

➡　小さな自治体であっても、大きな自治体であっても、市民や事業者は皆「エネルギーの消費者」です。日本全体のエネルギーのあり方を変えるためには、エネルギーを使う側がどのような電力や仕組みを選ぶかが重要になります。また、そのような選択を後押しする環境を地域全体でつくっていくことも大切です。

例えば、下記のようなことが考えられます。

① 再生可能エネルギーを重視する電力会社を選び、日本全体の再エネへの移行を後押しする

② 太陽光発電などを導入し、自ら再生可能エネルギーをつくり使う

③ 地域の再エネ事業や共同の取り組みを応援する

④ 地域で生まれた再エネを地域で利用する

第1回アンケートの主な質問と回答

（回答の続き）

➡　また、電気だけでなく熱の再エネ化も重要です。住宅の断熱性能を高めたり、高効率給湯器や太陽熱温水器を活用したりすることで、快適な暮らしと脱炭素を両立することができます。東久留米市のような自治体では、一つひとつの取り組みの規模は大きくなくても、市民・事業者・市が同じ方向を向き、多くの人が選択を少しずつ変えていくことで、大きな変化につなげることができると考えています。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇市民が日常生活の中で取り組む行動のうち、温室効果ガス削減と自然環境保全の両方に効果があるものとして、特に優先度が高いものは何か？

➡　東久留米市の豊かな自然環境を守り、さらに良くしていくには、市民一人ひとりの身近な行動が大切です。例えば、地元産の野菜をできるだけ食べて農家を応援することは、市内の農地を守ることにつながりますし、庭や敷地に緑を増やすことは、生きもののすみかや湧水環境を守ることにつながります。また、近距離の移動を徒歩や自転車にしたり、ごみや食品ロスを減らしたりすることは、二酸化炭素の排出削減にもつながります。このような毎日の行動が、東久留米の自然環境と地球環境の両方を守る力になります。

ただし、一人ひとりの行動だけでは限界もあり、地域全体で取り組むことも大切です。特に地球温暖化対策では、環境にやさしい商品やサービスを選びやすくすることや、省エネルギー、再生可能エネルギーの利用を地域全体で広げていくことが重要です。市民、事業者、市が協力しながらこうした仕組みづくりを進めることで、東久留米の豊かな水と緑を未来へ引き継ぐことができると考えます。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇「我慢ではなく無理なく楽する脱炭素」という話があったが、市民が継続しやすい取り組みの成功事例はある？

➡　実際に成果が上がっている取り組みの多くは、「もっと我慢しましょう」ではなく、「快適で便利な選択をした結果としてCO_2も減った」というものです。例えば、住宅の断熱改修や高効率給湯器への更新は、光熱費の節約や快適性の向上につながり、その結果としてCO_2の削減にも貢献します。大掛かりなリフォームでなくても、窓の断熱など、ホームセンターで手に入る材料を使った身近な工夫から始めることもできます。また、家電の買い替え時に省エネ製品を選んだり、太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用したりすることも有効です。脱炭素を特別な努力として捉えるのではなく、暮らしをより快適で経済的にする選択を積み重ねること、そしてその工夫そのものを楽しむことが、継続しやすい取り組みの鍵だと考えています。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇「ネイチャーポジティブ、東久留米市では大きな実績あり」という話があったが、具体的にどんな実績なのか？

➡　東久留米市は、全国でも比較的早い段階から生物多様性に着目し、第三次緑の基本計画・生物多様性戦略を策定している先進的な自治体です。市民・事業者・行政が連携しながら、湧水、河川、雑木林、農地などの保全に取り組んできたこと自体が大きな実績だと考えています。

　なお、ネイチャーポジティブとは、失われた自然を回復するだけでなく、こうした豊かな自然をより良い状態で未来につないでいくことでもあります。東久留米らしい形でこの考え方を実現するため、自然環境の保全だけでなく、気候変動対策や市民・事業者との協働も含めて議論し、将来像としてまとめたものが東久留米市第三次環境基本計画です。

　東久留米市はゼロからネイチャーポジティブに取り組むのではなく、これまで守り育んできた水と緑を基盤として、さらにその価値を高めながら次世代へ引き継いでいく段階にあると考えています。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇飛行機は、カーボンオフになったらどうなる？

➡　飛行機は脱炭素が難しい分野ですが、「飛ばさなくする」のではなく、「より少ないCO_2で飛ぶ」ことを目指しています。その中心となるのがSAF（持続可能な航空燃料）で、日本でも2030年までに航空会社の燃料使用量の10％をSAFに置き換える目標が設定されています。カーボンオフセットだけに頼るのではなく、まず排出量そのものを減らす技術開発が進められているところです。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇緑地を増やすために個人で取り組めることは？

➡　緑地を増やすというと難しく聞こえますが、まずは庭やベランダで花や植物を育ててみる、庭木を1本植えてみる、といったことから始められます。東久留米市では、そうした小さな緑が集まることで、生きもののすみかや水と緑のネットワークが形成されています。また、地元産の野菜を購入することも農地を守ることにつながります。大切なのは義務として取り組むことではなく、自然との関わりを楽しみながら少しずつ増やしていくことだと思います。

第1回アンケートの主な質問と回答

【重藤さんへの質問】

回答：重藤さん

◇地球環境を見直すスーパーウルトラマンみたいな人（AIではなく）は出てくる？

➡ 私は一人のヒーローがすべてを解決することは難しいと思っています。

公害の時代は、工場の排ガスや排水など、原因となる汚染源を特定し、それを減らすことで大きく改善することができました。しかし、気候変動や生物多様性の損失は、エネルギー、食料、交通、消費行動など、私たちの暮らしや経済活動そのものと深く関わっているため、一つの原因を取り除けば解決するという問題ではありません。

もちろん、画期的な技術が登場する可能性はありますし、AIもその助けになるかもしれません。しかし、それだけで解決するわけではなく、多くの人や企業、自治体がそれぞれの立場で行動し、社会の仕組みを少しずつ変えていくことが必要だと思います。

そういう意味では、必要なのは一人のスーパーウルトラマンではなく、「みんなが少しずつウルトラマンになること」なのだと思います。その積み重ねによって、地球環境問題の解決に近づいていくのではないでしょうか。

第1回アンケートの主な意見と対応

【グループワークの進め方について】

回答：東久留米市
サステナブル市民会議

◇話し合いの時間がもう少しあっても良い。

➡　第1回は、前半で“らぼ”のゴールなどをお話したため、グループワークの時間が短めとなりましたが、第2回、第3回は、活動計画につながる話し合いをするため、グループワークの時間を長めに設定します。

◇出てきた感想や質問をもっと全体で共有したい。

➡　各回で挙がった意見については、次回の“らぼ”までに、事務局がまとめて参加者へ共有します。第1回の意見は、この資料の前半に掲載しましたので、ご確認をお願いします。

第1回アンケートの主な意見と対応

【グループワークの進め方について】

回答：東久留米市
サステナブル市民会議

◇テーブルが大きく、声が聞きとりづらかったり、ふせんが貼りづらかったりした。

➡　参加者が全員テーブルに着くことができる範囲で、第1回より小さいサイズのテーブルが市役所内になかったため、引き続き、第1回と同じテーブルを使わせていただきます。ふせんの仕分けなど、ファシリテーターができる限りサポートを務めさせていただきますので、ご理解をお願いします。

第1回アンケートの主な意見と対応

【活動計画の作り方について】

回答：東久留米市
サステナブル市民会議

◇市内の先進的な取り組みや活動事例などを紹介していただけると、活動計画づくりのヒントになる。

➡　第3回で市民団体の活動事例などを紹介することを考えています。

◇参加者の関心分野ごとにグループを作り、具体的な活動を検討できると良い。

➡　第3回では、参加者それぞれの関心分野に応じた活動計画を作ることができるように、関心分野をお聞きしながらグループを作ることを考えています。

◇実際に行動へ移せる計画づくりのために、「誰が」「いつまでに」「何をするか」を整理できると良い。

➡　第3回では、活動計画を作るために、5W1H（なぜ、いつ〔いつまでに〕、どこで、誰が〔誰と〕 、何を、どのように）を整理していただくことを考えています。

第1回アンケートの主な意見と対応

【講演会&成果発表会の準備について】

回答：東久留米市
サステナブル市民会議

◇第4回(講演会&成果発表会)の準備をどのように行うか？

➡　第3回では、活動計画を作ったうえで、発表の方向性までは決めたいですが、具体的な発表の準備を行うことは難しいと考えています。そのため、発表に向けては、有志の方にお集まりいただき準備をお願いすることになると考えています。その際、事務局が責任をもって最後までサポートを行う予定です。

◇活動計画を発表した後も継続的に実践・交流できる仕組みがあると良い。

➡　2026年度メンバーのOB・OG会を作り、実践・交流できる仕組みを用意することを考えています。LINEのオープンチャットなどを利用し、任意で登録していただく想定です。

第1回アンケートの主な意見と対応

【来年度以降について】

回答：東久留米市
サステナブル市民会議

◇今後、子どもたち（小中学生など）が参加できる検討会があると良い。

➡　徐々にではありますが、参加者の対象を広げることを検討していきます。

第1回アンケートの主な意見と対応

【市民の取り組みについて】

回答：東久留米市
サステナブル市民会議

◇下記の3つを軸にした環境フェスタを行い、『今からでもできる！個々だからできる！地球への恩返し生活！』 を実施し続け、地球を守る人が増えると良い。

【低炭素の食生活】
・ノーミートの食事でできるだけ肉食を控える （家畜の餌のための森林伐採、家畜のゲップ、肉の輸送で温暖化が加速する）
・地産地消、旬産旬消を心がける
・自然食品、オーガニック食品などをえらぶ等
・家庭菜園

【省資源、低炭素の生活法】
・自転車に乗る:化石燃料をつかわず、二酸化炭素を排出しない移動方法

【自然重視、低炭素の表現活動】
・地元や国産の木や麻、綿、金属など自然素材を使った手工芸品つくり
・古着や端材など、不要な物を再利用したモノづくりなど

➡ 挙げていただいた活動内容は、第3回で活動計画を作る際のアイデアとして大事なことですので、この資料で参加者の皆さまに共有させていただきました。

第1回アンケートの主な意見と対応

【その他】

回答：東久留米市

◇東久留米市が、この10年間で実施してきた環境対策は？

➡　本市は、「環境基本計画」と「緑の基本計画・生物多様性戦略」に基づき、様々な環境への取組を進めています。これらの計画に基づく取組を着実に実行し、継続的な改善を図るため、計画の進捗管理の年次報告書として「かんきょう東久留米」を作成しています。市のウェブサイトで公開しておりますので、ぜひご覧ください。

検索　かんきょう東久留米　https://www.city.higashikurume.lg.jp/shisei/sesaku/houkoku/kankyo/1003367.html

◇市の予算の何％が環境問題関連か？

➡　環境に関する取組は、自然・生活環境の保全、地球温暖化対策、公園の管理など、幅広い分野や予算費目にわたっています。予算書では、環境衛生費、公害調査費及び公園費などに関連経費を計上していますが、公共施設や公用車両の脱炭素化、廃棄物・資源物の適正処理など、そのほかの費目にも環境に関する取組が含まれています。このため、環境関連経費を一つの区分として整理し、市の予算に占める割合をお示しすることは、現時点では難しい状況です。

　また、PPA事業やESCO事業などの手法も活用し、初期費用の負担を軽減しながら、公共施設への太陽光発電設備やLED照明の導入を進めています。